

舎人名の重富名のうち、娘に譲った五町七反九十歩が雑免と余田から構成され、給田をふくまなかった(二三〇ページ)のもそれに關係するものと思われる。また、上村にわずか一反三百歩しかない吉宗が舎人名であるのも、一町の給田を別に考えれば、舎人の没落零細化したものと考えなくてはむ。執筆者がそう考えておられるわけではないが。

さらに、もっとささいなことになって恐縮だが、永仁五年九月に田代家綱が娘に大鳥郷上条内一分地頭職を譲った事実にふれておられるのだから(三二九ページ)、この地頭職の名田地がどのように經營されていたか、にもふれてほしかった。それを考える史料があることも十分承知しておられる、と思うからである。

最後にもうひとつ些末なことで、恐縮の至りでどうしようもないが、堺市史統編のつぎにはいづれ大阪府史の編集も行われることであろうから、思いきって申し上げる。右の大鳥郷において、「本所にたいして贅御供を捧げる仕事が与えられていたと推測

される在家人」として、「籠持間人在家」の存在が考えられている(三四四ページ)。あるいは私見のあやまりかも知れぬので、ちがっていたらお許し願いたい。これは史料の読み誤りではなからうか。史料田代文書所収の建仁三年九月日付の庁宣にそく

していえば、「籠持間人在家の輩においては、舎人たりといえども、何ぞその催しを遁れんや」ではなく、「間人在家を籠め持つの輩においては、舎人たりといえども……」と読んだほうが、間人在家が舎人であるというような、身分的違和感がなくすむと思う。

以上、些細な研究上の問題点の指摘で、堺市史統編の歴史叙述のすばらしさになんの影響もないことである。指摘がわたくしの誤解であるかも知れないので、そうならくれぐれもお許し願いたい。近世の領域についてもふれる余裕がなくなってしまう、たいへん申し訳ない。本書をはじめとする堺市史統編の刊行の、一刻も早く無事完了するよう、お祈りしてつたない紹介をおわ

なお、第二巻は旧堺市域の大正から昭和二十年の敗戦までを取扱い、これもすでに刊行されていることをつけ加えておく。

(A5判一七六ページ 昭和四六年一月
堺市役所発行 頒価三、〇〇〇円)

(高尾一彦・神戸大学文学部教授)

R. Knowles & P. W. E. Stowe

EUROPE IN MAPS: Topographical Map Studies of Western Europe, Books 1 & 2

本書は、イギリスの大学初年級のヨーロッパ地誌の補助教材として編集された、ヨーロッパ各地の地形図集(二冊一組)である。とりあげられている地域はノルウェー、スウェーデン、デンマーク、西ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、スイスの八ヶ国、三十九地域に及んでいる。縮尺は大部分が五分分の一で、他に一分分の一、二分分の一、二・五分分の一、十万分の一等の縮尺のものも少しずつ収められている。構成としては、各節の始めにまず地形図

が多色刷(おそらく原色)で掲げられ(サイズはおおむね天地十八センチ、左右は図により十三センチないし二十六センチ)、その隣りのページには、地形図とはほぼ同じサイズで航空写真(垂直写真の場合と斜め写真の場合がある。例外的に地上写真もある)が収められていて、一目でその地域のイメージが浮び上がってくるようになって

いる。さらにその上に各項目毎に約二ページの解説文(その中にも図表が多く用いられている)が記され、最後には演習問題と参考文献があげられているというのであるから、教材としては、まさに申し分ないものといえよう。各国それぞれ異なる図式も、巻頭、巻末に分けて図示されていて、親切である。

収録された地域の中でも特に興味深いのは、スウェーデンのキルナ鉄山の地形図と写真(露天採掘の様子がよく表現されている)、オランダ・西ドイツ国境付近の低湿地の景観(ここは二ヶ国でそれぞれ発行されている地形図がともに収められており、西ドイツとオランダの地形図の表現法の差

異が一目瞭然である)、スイスの地形図におけるアルプスの氷河地形の絶妙な表現等であろう。また主要都市では、コペンハーゲン、リエージュ、デュースブルク、シュパイエル、ル・マン、マルセイユ、カルカソンヌ、チューリヒ等がとりあげられており、いずれも興味深い。

本書に類する解説つきの地形図集は、日本でも無論多数発行されており、それらの中には外国の地形図を収録するものもなくはないが、しかし、外国の地形図だけをまとめたものは、まだないようである。そうした点でも本書はユニークな存在といえる。

なお、欧米で発行されている地形図集としては、この他に合衆国発行の地形を主としたもの(W. B. Upton Jr.: Landforms and Topographic Maps, 1970, John Wiley & Sons, 邦価三、一八〇円)、J. I. Scovel et al.: Atlas of Landforms, 1965, John Wiley & Sons, 邦価四、三五〇円)、西ドイツ各州発行の豪華なものの(Topographischer Atlas Nordrhein-Westfalen, 1968, 邦価四、三八〇円)他にも二、三の州で既

刊。『地図』八一二に籠瀬良明氏の書評がある)等があげられる。それぞれ狙いとする所は異なるが、海外の地形図に親しむ機会のひとつないわれわれにとつては、本書同様の意義を有するということができよう。

最後に一言付け加えると、本書は二冊一組であるにもかかわらず、第一冊と第二冊のサイズが少し異なる(第一冊は天地二十一センチ、左右三十四センチ、第二冊は天地は同じであるが、左右は少し小さく三十二センチ)ことは、全く不可解である。

(Book 1: pp. 96, 1969, Book 2: pp. 96, 1971, Longmann, ¥ 4,120)

(山田 誠・京都大学助手)